

第24回 福岡県 美しいまちづくり 建築賞

福岡県建築都市部住宅計画課内；
福岡県美しいまちづくり建築賞事務局
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp>
福岡県庁ホームページ
お問い合わせ電話番号 / 092 643 3733

賞の部門

●住宅の部

- ・一戸建ての専用住宅。ただし、併用住宅で住宅部分の延べ面積が過半を占めるものを含みます。
- ・長屋建住宅及び共同住宅等の集合住宅、街区を形成する住宅群。ただし、複合用途で住宅の部分の延べ面積が過半を占めるものを含みます。

●一般建築の部

- ・原則として住宅の部以外の建築物を対象とします。

表彰の趣旨

今回で24回を迎えた福岡県美しいまちづくり建築賞は、福岡県内の地域の自然、風景、歴史、文化、生活、活動等を背景とした景観の形成に寄与するとともに、建築計画において優れた建築物に対して、大賞、優秀賞、財：福岡県建築住宅センター奨励賞を授与いたします。

選考委員会：◎委員長 ○副委員長 50音順、敬称略
大森洋子○ 久留米工業大学工学部建築・設備工学科教授
上別府保慶 西日本新聞社編集局文化部長
工藤卓◎ 近畿大学産業理工学部建築・デザイン学科教授
小泉隆 九州産業大学工学部住居・インテリア設計学科教授
古賀靖子 九州大学大学院人間環境学研究院准教授
田辺清喜 福岡県建築都市部次長
濱崎裕子 久留米大学文学部社会福祉学科教授
藤田理恵子 日本色彩学会関西支部九州色彩ネットワーク監査役
細田聡一郎 NHK福岡放送局放送部長
三村保始 財：福岡県建築住宅センター理事長

主催 / 福岡県

協賛 / 財：福岡県建築住宅センター

後援 / 住宅金融支援機構九州支店

独立行政法人都市再生機構九州支社

福岡県住宅供給公社

社：福岡県建築士会

社：福岡県建築士事務所協会

社：福岡県建設業協会

社：福岡県宅地建物取引業協会

社：九州住宅建設産業協会

社：日本建築家協会九州支部

社：日本建築学会九州支部

社：日本都市計画学会九州支部

NPO法人日本都市計画家協会福岡支部

福岡県ゆとりある住まいづくり協議会

表彰式

2012年3月18日(日)

会場 / 九州国立博物館

the 24th.

fukuoka

prefecture

architectural

award

for

artistic

urban

design

第24回 福岡県 美しいまちづくり 建築賞

the 24th.

fukuoka

prefecture /

architectural

award

for

artistic

urban

design

総評

本賞は、福岡県内の「個性豊かで、美しく、誇りを持って次の世代に継承することができる、地域の自然、風景、歴史、文化、生活、活動等を背景とした景観の形成に寄与するとともに建築計画において優れた建築物」を顕彰することを目的としている。一次選考で選ばれた作品の各賞選考にあたっては、設計者、事業主、施工者の方々から現地審査中に直接説明を受け、さらに選考基準と合わせた評議を行ったうえで、受賞作品を決定する仕組みをとった。本年度で24回継続して行われている今回もまた、福岡県の「誇りとなる建築」をアーカイブスとして保存記録することができた。次回の記念すべき第25回の建築賞応募作品にも多いに期待したい。

福岡県美しいまちづくり建築賞選考委員会委員長

近畿大学産業理工学部建築・デザイン学科教授
工藤卓

本賞は、福岡県内の「個性豊かで、美しく、誇りを持って次の世代に継承することができる、地域の自然、風景、歴史、文化、生活、活動等を背景とした景観の形成に寄与するとともに建築計画において優れた建築物」を顕彰することを目的としている。一次選考で選ばれた作品の各賞選考にあたっては、設計者、事業主、施工者の方々から現地審査中に直接説明を受け、さらに選考基準と合わせた評議を行ったうえで、受賞作品を決定する仕組みをとった。本年度で24回継続して行われている今回もまた、福岡県の「誇りとなる建築」をアーカイブスとして保存記録することができた。次回の記念すべき第25回の建築賞応募作品にも多いに期待したい。

本年度の応募点数は、住宅の部30点、一般建築の部39点、合計69点であった。地域別にみると、福岡市を含む福岡地域38点、北九州地域14点、筑豊地域5点、筑後地域12点となっている。各賞は、福岡県知事表彰の大賞および優秀賞を住宅の部と一般建築の部のそれぞれに1点、財：福岡県建築住宅センター理事長表彰の奨励賞もそれぞれ1点を選出した。住宅の部の大賞受賞作品「むさしヶ丘の住宅」は、陶芸作家の創作展示活動ができる職住一体型の斬新な住宅景観の創出や木構造と仕上げの一体化などが、この賞の趣旨に最も相応しい住宅として評価された。優秀賞受賞作品「小倉タナカ邸」は、定年後の両親の暮らしを心豊かにする「住居」と「庭」を、アイデアに満ちた空間に造り上げた個性的な建築計画が高く評価された。「小石原の家」は、閑静な山村で暮らすライフスタイルの創出のために、山並みや道路のカーブを背景にして、住宅

全体を大きな瓦屋根で覆うという建築計画が奨励賞として評価された。一般建築の部の大賞受賞作品「築上町火葬場」は、人の死を見送る空間を地域の人々の心象風景と結びつけ、一遺族一炉システムにまとめた工夫のある建築計画が、この賞の趣旨に最も相応しい公共建築として評価された。優秀賞受賞作品「うきは市立総合体育館うきはアリーナ」は、地域産材の「耳納スギ」を用いる立体トラス架構に果敢に取り組み、健康づくりを目的とする一貫性のあるコンセプトと緻密なディティールによる空間表現が高く評価された。「にして歯科」は、八女地域のまちかど風景を意識した外観や、きれいにまとまったインテリアデザインなどの建築計画が奨励賞として評価された。

住宅の部の選外佳作作品「古門の家(古民家再構成)」は、民家を再生してふるさとに住むという夢を実現している温もりのある劣作であった。一般建築の部の選外佳作作品「JR博多シティ」は、5年もの歳月をかけた公共性に優れた大作であるが、本賞の選考基準の枠組みではその建築的魅力を十分な評価に反映できなかった。

住宅の部

むさしヶ丘の住宅
所在地：筑紫野市

設計者 (有)エヌ・ケイ・エス・アーキテクト 末廣香織+末廣宣子
〒810-0001 福岡市中央区天神3-9-10-602
TEL 092-731-8558
URL <http://www.nksarc.com>

建築主 個人
施工者 (有)小松工務店 小松善久
用途 住宅+陶芸工房
構造規模 木造1階建



撮影：石井紀久



撮影：石井紀久



撮影：石井紀久



撮影：NKS architects



撮影：石井紀久

設計趣旨

郊外住宅地に建つ2世帯の家族のための住宅と陶芸工房である。

4面を道路に囲まれた敷地に、住人のプライバシーを確保しながら、いかにまちとの関係性を生み出すかが大きな課題であった。同形状の木造の架構をもつ細長い2棟の建物を平屋で配置した。工房棟は道路と駐車場に向けて直線型とし、道路から工房やギャラリーの様子がかがえる。対して、住宅棟は少し高い壁をV字型に曲げることで囲われた中庭をつくり、大きな開口部はそちらに向けて、塀を作ることなくプライバシーを確保できた。

長い間空地であった土地に立った建物が、住宅街のランドマークとして、ここを訪れる人々と地域をつなぐネットワークの起点となるだろうと期待している。

講評

いちょう並木道を登りつめたY字分岐点にこの住宅は現れてくる。

Uの字平面で黒い外壁の住宅棟と、Iの字平面でシルバー外壁の陶芸工房棟の併置が異彩を放っている。素材と色彩を対比させたこれら両棟の架構法は共通していて、同形状の木造フレームを連続配置させる自己増殖の発想が楽しい。この単一の架構法が、プライバシーを守るために道から閉じたい住宅棟と、道と街区に開放したい工房棟を、同形同質の大きな木質空間に造り上げている。

陶芸作家にとっては、木材・木造の利点を応用した空間ボリュームの確保こそが重要であったのであろう。筋交いとして機能する杉板斜め張りを構造補強としたことで、手技の木工事を内装皮膜で隠さず、住まい手が自由に工夫できる利点も見逃せない。工房棟での創作活動やギャラリー展示によって、地域生活とつながりをつくり出そうというコミュニティ文化構築の意欲も貴重だ。

木造の見直しが社会的な課題となっている現在、この職住一体の木造住宅は、人と社会と木造を結びつける刺激的なデザインモデルとなっている。



撮影：石井紀久

一般建築の部

築上町火葬場

所在地:築上郡築上町

設計者 株式会社アール・アイ・エー九州支社 支社長 宇野勝久
〒810-0004 福岡市中央区渡辺通2-4-8 小学館ビル
TEL 092-771-8716
URL <http://www.ria.co.jp/site/top.html>

建築主 築上町長 新川久三
施工者 松山建設株式会社 代表取締役 松山孝義
株式会社松田組 代表取締役 松田秀美
用途 火葬場
構造規模 RC造2階建



撮影:みどりの写真



撮影:寺崎健/エスエス九州



撮影:みどりの写真



撮影:みどりの写真



撮影:みどりの写真

設計趣旨

町合併に伴い新火葬場が旧火葬場の脇に建替えられることとなった。旧火葬場のイメージ、焼却施設が集まるイメージを払拭し、周辺環境、そして町の人の心に馴染むような火葬場をつくるのが計画の目的となった。建物の配置・平面的な形は周辺環境を注意深く読み取りながら決定している。外観は透明感のある印象を目指した。また、火葬の場として建物自体は背景に徹し、風や光など自然の要素で各シーンを形成している。特に諸室と太陽の関係を考え、室の配置や光の扱い方を決めた。大切な人を送った記憶の背景に残る風や光や景色が、町に暮らす人々の心象風景として刻まれてゆくことを願っている。

講評

火葬場のかたちを建築家の創造力で見つめ直した公共建築である。溜池の水辺と光のなかで、告別・見送り・拾骨のすべての行を各遺族専用の炉前ホールで行う平面構成は、悲しみに暮れる人々のプライバシーの保護を表現している。設計者によれば、玄関の天井に複数の小円形を穿った採光の造形は、人の死を思いやる遺族の心象風景に想いを寄せたものだという。1940年に竣工したストックホルムの「森の火葬場」が、1994年にユネスコの世界遺産に登録されるなど、火葬場の重要性が取りざたされるようになってきた。日本でも火葬場の計画に建築家が積極的に踏み込んでいる事例が多くなっている。こうした中でこの火葬場の空間造形や光のコントロールによる清浄性の実現は意義深い。あえて今後の環境整備を期待したいのは、建替え跡地を利用した駐車場環境をいまいちど自然の森に再生して、敷地背後のゴミ焼却場からこの施設の隔離を図って欲しいことである。それが実現できれば、築上町の森と水に囲まれた聖なる場の心象風景により深く迫る火葬場として記憶されるのではなかろうか。



撮影:みどりの写真

住宅の部

小倉タナカ邸

所在地：北九州市小倉北区

設計者 田中昭成ケンテック事務所
田中昭成+POI+なわけんジム+Lapin
〒140-0011 東京都品川区東大井1-14-24 東京ナイル727
TEL 03-3450-4117
URL <http://web.mac.com/tnkaknr>

建築主 個人
施工者 株式会社千葉工務店
代表取締役 宮本則子
用途 専用住宅
構造規模 CP型枠コンクリートブロック造1階建



撮影：杉本圭



撮影：杉本圭

設計趣旨

定年を迎え数十年ぶりに帰郷する夫婦の住宅である。しかしその環境は、住宅密集地化し、敷地境界に隣家のブロック塀がぐるりと建てられていた。その圧迫感を解消するため、隣家のブロック塀を住宅自らに取り込むことを試みた。

敷地を十字にブロック塀で切り分けて隅部を開放する計画とした。そして自他ともにブロックを白く塗ることで、隣家と自分のブロック塀が連続する明るい庭の景がどの部屋からも得られた。借景ならぬ「借塀」である。小さく建てて大きく住むこと、光と風が巡る健康な住環境を実現した。

また「借塀」を担う四方の庭は、屋上のヴォイドと共に隣家との緩衝帯となることで、住宅密集地のwin-winな環境向上を図っている。

講評

設計者のご両親が、定年後の庭づくりを楽しむために故郷に建てた家である。

ブロック塀に囲まれた旗竿敷地の形状を逆手にとる菱形の居住空間と囲い庭のデザインに特徴がある。住宅の中央に十字形に配置されたブロック壁を背にした4つの三角室と、対面する4つの三角庭が、「うち」であり「そと」であるという新鮮な空間感覚をつくり出している。

同様の感覚は屋根にもおよぶ。ここでは、周囲の高見からのぞき込まれる位置関係にある屋根面のすべてを空に開放する屋上テラスとしている。真上からは、旗竿地の敷地全体が、新しい庭環境として再生しているようにも見える。この屋根は、風雨から生活を守るものであると同時に、周辺に連なる景観形成の役割を担っている。

ご両親のこの住宅への喜びはひとしおであり、孫たちに「お屋根に上ってごらん」という愉しさも生まれよう。住宅デザインの原点はこうした顔の見える思いやりのある環境づくりにあるのかもしれない。

一般建築の部

うきは市立総合体育館うきはアリーナ

所在地：うきは市

設計者 黒川哲郎+デザインリーグ 黒川哲郎
〒180-0003 東京都武蔵野市吉祥寺南町1-32-13
TEL 0422-48-1381

建築主 うきは市長 怡土康男
施工者 東洋・ヤマサキ建設工事共同企業体
代表者 東洋建設株式会社九州支店 執行役員支店長 馬庭秀秋
用途 体育施設等
構造規模 RC造地上2階地下1階建



設計趣旨

「英気漲天」
船載の文化を装飾古墳に表し、造船の杉山と梶山を『風土記』に記し、用材神話を『日本書紀』に生んだ耳納連山は、水車など筑後川流域の水田稲作を支え、反対にその東京まで伐出する林業が支えられてきた治山治水の森林で、今日も川との間に果実や麦を実らせ、浮羽、吉井の旧町名のままに、下流の都市の生活用水を涵養している。

軽く温かく柔らかな杉ならでは、安全で健康で長寿命な戸建や公営住宅や公共建築は、都市と地域の共有の願いであり、そのための技術は建築家の課題である。

地域の材と技による地域の天蓋「英気漲天」は、健康維持施設を建築にとどめず、日常を覚醒する光景を生じ、風景の作法「故郷の風景」に記憶を重ねる共有の空間である。

講評

施設全体に一貫して地産スギ材を活用することで、うきは市民の公共の福祉への思いを表現している。もともと「うきは」は水と緑と耳納スギで知られる土地柄である。その自然環境を考慮して高さを抑制した分棟配置の巧みさと、「耳納スギ縁桁」を用いて製作した立体トラス天井を通した眺望の造形が心地よい。

スポーツ施設ゆえに地上に大きく目立つ建築ではあるが、利用者に快適となる空間計画の手法と技術を隅々にまで駆使して見飽きることがない。木質重量感がありすぎるほどに露出された縁桁トラス仕様は、地域の公共施設になぜ地産材を用いることが望まれるのかというこだわりに取り組んだ地産地消の表現として受け止めたい。設計者の「地域産材を用いた施設でのスポーツ競技は、利用者の記憶に残り郷土の魅力として伝えられていく」という建築計画論に賛同する。

このような地域性をテーマにした設計が、持続可能な環境負荷の少ない美しいまちづくり景観を創りだしていく原動力となることは間違いない。

奨励賞

住宅の部

小石原の家

所在地：朝倉郡東峰村

設計者 株式会社森裕建築設計事務所 代表取締役 森裕
〒815-0032 福岡市南区塩原4-5-31
TEL 092-542-2707
URL <http://www.maostyle.com>

建築主 個人
施工者 時川建設有限公司 代表 時川博好
用途 専用住宅
構造規模 木造1階建+RC造1階建



撮影：Kouji Okamoto / Techni Staff



撮影：Kouji Okamoto / Techni Staff

設計趣旨

小石原の入り口に建つこの家は三州銀瓦の大屋根が背後の森林の稜線と連なり羽根を広げて訪れる人々を迎えている。

瓦葺屋根に漆喰壁という素材を用いて周辺の多くの家屋と同様な相関性をもたせながらここではより深い軒下がつくるダイナミックな空間の創出を試みている。玄間まで8mあるアプローチの小幅板の天井と石の床が更に内部にまで続くことによってより深い奥行きを感じさせ建物の内外に緩やかに深い陰影を与えている。

リビングでも玄間と同様に内外が繋がりリビングとテラスとが一体となる。ここはもともと強いコミュニティを持つこの村の人々が集い音楽会やお披露目を行うためのみんなの舞台として利用されている。

講評

いぶし銀の瓦屋根と漆喰白壁が造形テーマとなった大きな家である。

家の佇まいは、敷地背後の杉林と、緩くカーブして登ってくる車道とが調和するイメージから構想されたという。

たつぷりと余裕のある屋敷地に架かる瓦葺きの大屋根は、小石原地域の景観になじんでいるだけでなく、村の入り口を印す個性的な自己主張を始めているようにも見える。壁を仕上げる漆喰もまたこの地域では伝統的な素材として親しまれている。室内の壁と天井の面積を左官が漆喰で塗り込んだ技は見応えがある。その意味でこの住宅は、瓦と漆喰の2つの伝統的な素材によって地域の仲間入りを果たしているといえよう。

地域の人々や音楽家を招いて、大きな広間と広いテラスを利用した演奏会が開かれるという。もちろん大家族でのバーベキューも。都会の喧噪の中での生活とはひと味違う、閑静な山村のライフスタイルをしっかりと支援している建築計画として受け止めた。

奨励賞

一般建築の部

にして歯科

所在地：八女市

設計者 有限会社設計機構ワークス 代表 坂口舞
〒810-0074 福岡市中央区大手門1-4-11
TEL 092-732-8620
URL <http://www.cafeworks.com/>

建築主 医療法人にして歯科医院 理事長 西出裕輔
施工者 株式会社イノウエハウジング 代表取締役 井上正通
用途 診療所
構造規模 鉄骨造一部RC造2階建



撮影：石井紀久



撮影：石井紀久

設計趣旨

にして歯科の計画にあたって、八女の繁華だった商店街の通りに、新しいまちかどをつくりたいと思った。

杉板型枠打放しと、黒く塗装された、ふたつのコンクリートの箱の間に鉄骨でかるやかに屋根をかけた。打放しの箱は天井の高い待合空間、黒い箱はバックヤードの諸室である。軽い屋根の下の空間には、主診療室、特別診療室、予防診療の他にこみちのような待合があって、患者さんが快適に治療を受けられるようになっている。そしてそれらの空間が、『八女提灯』のように、まちにやさしい灯をともし。

まちかどに植えた緑と、まちを愛するドクターとスタッフのまなざしと、患者さんの笑顔が八女のまちかどの風景をつくりだす。

講評

八女市中心部の国道と県道が交差するまちかどに新しい景観を創りだそうとしている。

八女市では市民提案制度を設けるなど、まちづくり・地域づくりに貢献する積極的な提案と市民参加を促している。この要請に応えるかのように、ここでは八女の伝統工芸である和紙と提灯のイメージを建築化して地域文化とのふれあいを期待した空間造形となっている。

まちかどに面した透明ガラスで囲まれた小空間は、診療患者のプライバシーを保護しながらも、まちに対して開放する小さな舞台のようにも見える。植栽帯に植えられた紅白のハナミズキも道行くひとに楽しい景観である。外壁の一部である打ち放しコンクリートの杉板型枠模様も木や緑へのこだわりを表したものであろう。これらの緑は歩道の並木へとつながっていく。

建物内部の白く明るい診療室は、患者の快適性を考慮した細やかな工夫がなされ、市民が気軽に歯科診療をうけられるやさしさが演出されている。

ご応募いただきました皆様、
ありがとうございました。
福岡県美しいまちづくり建築賞につきましては、
福岡県庁ホームページにもご覧いただけます。

これまでの 福岡県美しいまちづくり建築賞

[建築住宅文化賞、美しいまちづくり賞]大賞受賞作品

第1回福岡県建築住宅文化賞
昭和63年度 北九州市立美術館

第2回福岡県建築住宅文化賞
平成元年度 石橋別邸第一水明荘、福嶋医院、
花園幼稚園、ピレージ香月

第3回福岡県建築住宅文化賞
平成2年度 松口邸、的野歯科医院、
立花の家、グリーンピア八女

第4回福岡県建築住宅文化賞
平成3年度 進藤邸、
不知火病院“海の病棟”、山田市立山田小学校、
福岡ウォーターフロントプロムナード“マリゾン”

第5回福岡県建築住宅文化賞
平成4年度 苅田町立図書館、明治学園高等学校
体育館、カルタックスおおむた

第6回福岡県建築住宅文化賞
平成5年度 田川文化エリア、福岡県青少年科学館、
佐田邸(4世代の家)

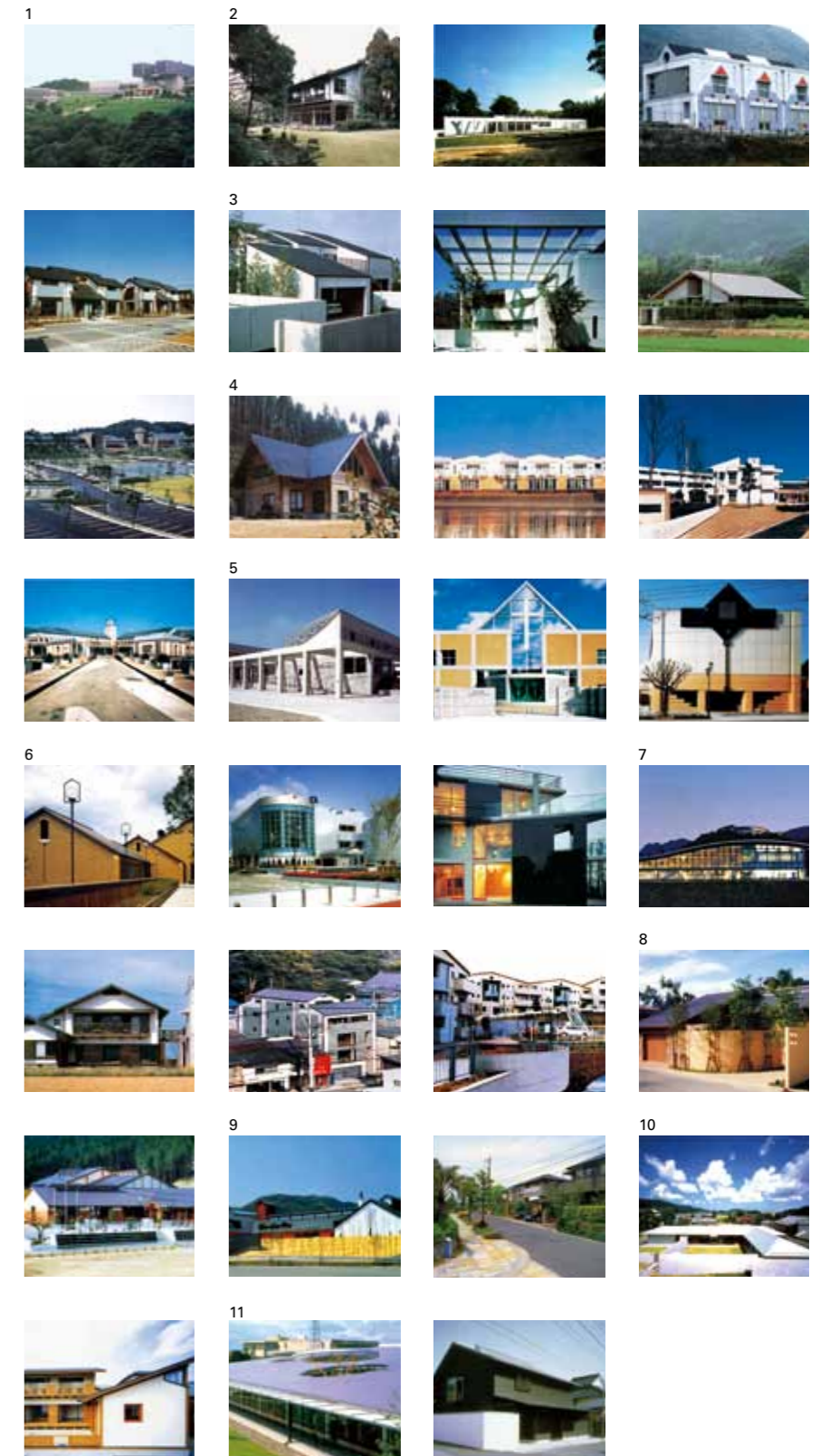
第7回福岡県建築住宅文化賞
平成6年度 茶の文化館、二丈町の家、
山笠の家(橋本邸)、西大谷第2団地(市営住宅)

第8回福岡県建築住宅文化賞
平成7年度 縄田邸、上陽町立尾久保小学校

第9回福岡県建築住宅文化賞
平成8年度 碓井琴平文化館、新宮湊坂

第10回福岡県建築住宅文化賞
平成9年度 鞍手の家、太宰府長浦台の家

第11回福岡県建築住宅文化賞
平成10年度 瀬高町立図書館・歴史資料館、
山村留学ふれあい館(筑穂学舎)



住宅の部

古門の家: 古民家再構成

所在地 鞍手郡鞍手町

設計者 株式会社IWAKIRI S.A. 一級建築士事務所

代表取締役 岩切重男・岩切文子

〒811-1211

筑紫郡那珂川町今光3丁目166



一般建築の部

JR博多シティ

所在地 福岡市博多区

設計者 博多駅開発設計共同企業体

[(株)三菱地所設計、

ジェイアール九州コンサルタンツ(株)]

〒810-0001

福岡市中央区天神1-6-8



撮影: イクマサトシ/TechniStaff

これまでの 福岡県美しいまちづくり建築賞

[建築住宅文化賞、美しいまちづくり賞]大賞受賞作品

第12回福岡県建築住宅文化賞
平成11年度 山田市立下山田小学校

第13回福岡県美しいまちづくり賞
平成12年度 めくばーる三輪、青葉台ほんえるふ

第14回福岡県美しいまちづくり賞
平成13年度 大野城の住宅、
ひふ科いのクリニック、
八女市多世代交流館「共生の森」

第15回福岡県美しいまちづくり賞
平成14年度 City Cube、篠栗幼稚園

第16回福岡県美しいまちづくり賞
平成15年度 SHIMA STYLE、
渡辺クリニック姪浜、247

第17回福岡県美しいまちづくり賞
平成16年度 カルシア小戸ナチュア

第18回福岡県美しいまちづくり賞
平成17年度
昭和初期和風住宅の移築プロジェクト、
西南学院中学校・高等学校、
伊田堅抗楯二本煙突〈景観賞〉

第19回福岡県美しいまちづくり建築賞
平成18年度 TERZETTO(テルツェット)、
中村製紙所新社屋

第20回福岡県美しいまちづくり建築賞
平成19年度 須崎の長屋

第21回福岡県美しいまちづくり建築賞
平成20年度 東神原の家、アクア博多

第22回福岡県美しいまちづくり建築賞
平成21年度 ベットと暮らす家[K邸減築工事]、
天神MENTビル

第23回福岡県美しいまちづくり建築賞
平成22年度 豊前の家、下川歯科医院

12



13



14



15



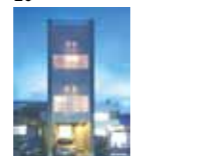
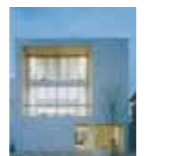
16



17



19



20

21



23

財団法人福岡県建築住宅センター

<http://www.fkjc.or.jp>

お問い合わせ先/092 781 5169

財団法人福岡県建築住宅センターは
福岡県美しいまちづくり建築賞を応援しています

財団法人福岡県建築住宅センターは、県民の高度化・多様化する住まいづくりに
に因るため、建築・住宅行政の補完的役割を果たす機関として1978年(昭和
53年)に設立されました。

今後も社会経済情勢の変化に対応しながら、県民のニーズに応じてまいります。
住宅に関する知識の普及、住宅相談、セミナー、住宅瑕疵担保履行法に基
づく保険取扱機関としての業務等を通じて消費者の保護を図るとともに、モデル
住宅の展示、住宅情報プラザの運営や住宅フェアの開催等を通じて、的確な
住情報の提供を行っています。

また、工務店等の技術者に対する研修会の開催、建築技術に関する調査研
究等を行い、併せて建築物等の安全性(定期報告)に関する業務、並びに福岡
県の指定を受けて、指定確認検査機関及び指定構造計算適合性判定機関として、
建築確認・検査、構造審査業務及び、国の登録住宅性能評価機関としての諸業
務を実施しています。

建築住宅センターの住まいづくりサポート

住宅相談

専門相談員によるアドバイスのほか弁護士による法律相談

住まいづくり教室

一般消費者を対象とした住まいに関するセミナー開催

福岡県あんしん住替え情報バンク

高齢者世帯等の住み替えや持家活用のお手伝い

住まいの安心リフォームアドバイザー派遣制度

耐震診断・バリアフリー・リフォームに関するアドバイザーの派遣

生涯あんしん住宅

在宅ケア対応モデル住宅の展示